

2018年春学期の全時間訓練のための  
メッセージアウトライン

主題：  
キリストのからだとしての召会を建造するために、  
キリストの豊富を享受する

メッセージ 16

キリストを、わたしたちの美德、神の平安、わたしたちの秘訣、  
わたしたちを力づける方として享受する

聖書：ピリピ4:5-9, 11後半-13

- I. ピリピ人への手紙においてわたしたちが経験するキリストの美德は、キリストを生きる生活の表現です——1:19-21前半, 2:5-13, 3:8-10:
- A. パウロは謙虚溫柔さと思いがけないことを、キリストを生きる生活の表現の最初の二つの面として考えます。
  - B. 思いがけないはサタンから来ますが、人の生活の総合計であって、信者がキリストを生きる生活を妨げます。謙虚溫柔さは神から来ますが、キリストを生きる生活の総合計です。これらは相反します——マタイ6:22-34。
- II. 「あなたがたの謙虚溫柔さを、すべての人に知らせなさい。主は近いのです」——ピリピ4:5:
- A. クリスチャンの経験によれば、謙虚溫柔さはすべてを含みます。なぜなら、それはクリスチャンの美德すべてを含んでいるからです。謙虚溫柔さは、実際には、主の満ちあふれる供給を伴う、すべてを含む霊である、すべてを含むキリストです——1:19-21前半:
    - 1. 謙虚溫柔さは、人を取り扱うことで分別のあること、思いやり、心遣いであり、厳格に人の法的権利を主張しないことです。謙虚溫柔さとは、当然受けるべきものを受けられなくても容易に満足できることを意味します:
      - a. 謙虚溫柔さには、愛、辛抱強さ、親切、へりくだり、同情、思いやり、従順さ、屈服しようとする気持ちが含まれます。もしそのようなすべてを含む美德を持つなら、わたしたちはまた義と聖を持つでしょう。
      - b. 謙虚溫柔さにはまた、自制、節度、優しさ、理解力、共感、知恵、あわれみ、温和、主を仰ぎ望むこと、主がすべての事で主権を持っていることを認めるといふ美德さえ含まれます——参照、IIコリント12:7-9。
    - 2. 謙虚溫柔な人は、常に溶け込む人であり、その振る舞いはいつでも適切です——参照、6:1前半, 10:1, ピリピ1:19, イザヤ11:2:
      - a. 謙虚溫柔であれば、わたしたちは他の人たちの必要を供給する知恵と能力を持つでしょう。わたしたちはまた、彼らに何を語るか、いつ語るかを十分に知っ

ているでしょう——50:4-5. コロサイ1:28. 箴25:15。

- b. 謙虚溫柔であるとは、他の人たちがわたしたちの言動によってどのように影響を受けるかを考えることです——歴代下1:10。

B. すべてを含む美德として、謙虚溫柔さはキリストご自身です。キリストが謙虚溫柔さであるので、パウロにとって生きることは謙虚溫柔さでした——ピリピ1:21前半：

1. わたしたちの謙虚溫柔さをすべての人に知らせるとは、わたしたちが生き、大きく表現するキリストを、またわたしたちの生活様式とし、わたしたちのゴールとして追い求めるキリストを、すべての人に知らせることです。
2. 主イエスだけが謙虚溫柔さに満ちた生活をしました。キリストだけが今日、わたしたちの完全な謙虚溫柔さとなり得ます——ルカ24:15-19, 28-31. マタイ17:24-27. ヨハネ11:20-34。
3. わたしたちの謙虚溫柔さを知らせるとは、キリストをわたしたち人の美德すべての総合計として表現する生活をするということです。

C. 謙虚溫柔さについて語った直後に、パウロは主は近いと言いました：

1. 空間的には、主はわたしたちに近く、すぐにも助けます。時間的には、主は近く、間もなく来ます——参照、ローマ10:8-13。
2. 主が近いとは、おもに彼がわたしたちと共に臨在することに言及しています——マタイ1:23. 出33:14。

III. 「何事にも思い煩うことなく、あらゆることにおいて、感謝をささげることを伴う祈りと願い求めによって、あなたがたの要望を神に知らせなさい。そうすれば、人知をはるかに超えた神の平安が、あなたがたの心と思考を、キリスト・イエスの中で護衛して下さいます——ピリピ4:6-7：

- A. キリストご自身は神の平安であり、あらゆる人の理解を超えています——イザヤ9:6. ヨハネ14:27. ルカ7:50. ローマ3:17. 5:1. 8:6. 15:13. 16:20。
- B. ピリピ第4章6節の「何事にも」という言葉は、日々わたしたちに起こるさまざまなことを指します。
- C. 祈りは一般的なものであり、それは礼拝と交わりの要素を含んでいます。願いは特別なものであり、特定の必要のためです。わたしたちの祈りと願いには、主に感謝をささげることが伴うべきです。
- D. 「神に」は、ある方向の動作を示し、生ける結合と交流の意味であり、交わりを暗示します。ですから、ここの「神に」の意味は、「神との交わりの中で」ということです。
- E. 祈りの中で神と交わりを実行した結果は、神の平安を享受することです。神の平安は實際上、平安としての神であり（ピリピ4:9）、わたしたちが祈りによって彼と交わることを通して、悩みの均衡を取る重り、思い煩いの抗毒剤として、わたしたちの中へと注入されます（ヨハネ16:33）。
- F. 平安の神は、キリストにあるわたしたちの心と思考の前を巡回して、わたしたちを落ち着かせ、静めます——参照、イザヤ30:15前半。
- G. わたしたちが思い煩いのない生活をしようと思うなら、わたしたちのすべての環境

が良くても悪くても、神によって、わたしたちに割り当たられたのは、キリストを得、キリストを生き、キリストを大きく表現するというわたしたちの運命を全うする役割を果たすためであることを認識する必要があります——ローマ8:28-30。マタイ10:29-31。Ⅱコリント4:15-18。

IV. 「最後に、兄弟たちよ、何であれ真実なこと、何であれ誉れあること、何であれ義なること、何であれ純粋なこと、何であれ愛らしいこと、何であれ好評なこと、またもし何らかの美德があり、何らかの称賛があるなら、これらのことを考慮しなさい」——ピリピ4:8：

- A. これらの美德は、神の具体化であるキリストを追い求める者たちの内側から生かし出された神の属性の表現です。
- B. これらの美德は、キリストを生きる生活の六つの支配する面です：
  - 1. キリストを生きる生活は真実です。すなわち、倫理的に信頼でき、いかなる見せかけや偽りもありません。
  - 2. キリストを生きる生活は威厳があります。すなわち、高潔で、高貴で、謹厳で、信頼でき、尊敬の念に値します——Ⅰテモテ3:8, 11。テトス2:2。参照、ローマ9:21。
  - 3. キリストを生きる生活は義です。すなわち、神と人の前で正しいです——ピリピ3:9。
  - 4. キリストを生きる生活は純粋です。すなわち、意図と行動において単一で、何の混じり気もありません——マタイ5:8。Ⅰテモテ5:1-2。
  - 5. キリストを生きる生活はすばらしいです。すなわち、愛らしく、感じがよく、人の心を引き付けます。
  - 6. キリストを生きる生活は、評判がよいです。すなわち、名声があり、好評で、魅力的で、人を引き付け、丁重です——ホセア14:7。
- C. 美德と称賛は前の六つの項目の総合計であり、それらすべてには、いくらかの美德、卓越性、称賛に値するものがあります——マタイ5:16。
- D. 正しい人であるとは、人の美德における神聖な属性を通して神を表現すること、神の属性の実際としてのキリストで満たされた人の生活を持つことです——参照、創1:26。

V. 「わたしはどんな境遇でも、満ち足りることを学んだからです。わたしは卑しくなる道を知り、また豊かになる道も知っています。あらゆる事において、またいっさいの事柄において、わたしは飽くことにも飢えることにも、豊かであることにも乏しくあることにも、秘訣を学びました。わたしは、わたしを力づけてくださる方の中で、いっさいの事柄を行なうことができるのです」——ピリピ4:11後半-13：

- A. パウロはあらゆる種類の環境の中で、どんな状況でも、どんな事でも、キリストを秘訣とし、キリストを経験して、キリストのゆえに満ち足り、喜んでいました——4節。
- B. 12節の「わたしは……秘訣を学びました」とは、文字どおりには、「わたしは入門しました」という意味です。ここの比喻は、人が秘密結社に入門して、基本原則を教えられることを言います——コロサイ2:2。エペソ3:3-4。5:32：
  - 1. パウロはキリストに回心した後、キリストとキリストのからだの中に入りました

- た——使徒9:3-19, 25-28. 22:6-21. 13:1-4。
2. パウロはどのようにキリストを命とし（コロサイ3:4）、キリストを生き（ピリピ1:21前半）、キリストを大きく表現し（20節）、キリストを獲得し（3:8, 12）、召会生活を持つか（1:8, 19. 2:1-4, 19-20. 4:1-3）の秘訣を学びました。
- C. ピリピ人への手紙第4章の秘訣は、わたしたちを力づけるキリストの中で、いっさいの事柄を行なうことができるということです——13節. 英文詩歌564番：
1. キリストにある人として、パウロはあらゆる環境の中でキリストを経験し、彼を適用しました：
- a. パウロはキリストを適用しましたが、それは人に見いだされることができました——3:9。
- b. このキリストは実際に、生きていて、近くて、用いることができ、優勢です——4:5後半. 詩歌400番。
2. 力づける方としてのキリストについてのパウロの言葉は、特にキリストがわたしたちを力づけて、わたしたちが彼を人の美德として生き、それによって、あらゆる種類の環境において、彼の無限の偉大さにおいてキリストを大きく表現することに当てはまります——ピリピ4:8-13：
- a. キリストの力づけることによって、わたしたちは満ち足りた生活をし、真実であり、威厳に満ち、義で、純粹であり、すばらしくて、評判がよいことが可能です——11-12, 8。
- b. これらの美德のある生活をするには、クリスチャンの働きを行なうことよりもはるかに難しいです。
3. 力づける方としてのキリストを経験しようとするなら、以下の事柄において彼に協力する必要があります：
- a. わたしたちは、主が十字架上で血を流したことに基づいて、わたしたちの罪（複数）の徹底的で、新鮮な赦しを経験する必要があります——ヘブル9:14, 10:19, 22. 出24:8. マタイ26:28。
- b. わたしたちはキリストの復活を通して、この世から切り離され、分離され、乳離れする必要があります——Iヨハネ2:15-16, 20。
- c. わたしたちは昇天が何であるかを知り、わたしたちが受けた命が天的な命であることを知る必要があります。わたしたちは主と共に天に昇り、こうして天的な人たちであるという事実に気づくべきです。外側で、わたしたちは依然として地上で生きていますが、内側で、わたしたちの内なる命と気分について言えば、わたしたちは天で生きています——エペソ2:6. ヘブル8:1-2. 4:14-16. 7:25-26。
- d. わたしたちの地上での現実の生活において、わたしたちは神の御前に来て、彼の中へと入り、彼の御顔の光の中で生きることによって絶えず祈る人たちでなければなりません——詩42:5, 11. 80:1, 3, 7, 19。